

2025 年度

事業計画書

自 2025 年 1 月 1 日

至 2025 年 1 2 月 31 日

公益財団法人 ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン

目次

財団の概要（基本理念と事業）	3
2025 年事業運営の方針	6
公益目的事業 1：ハウス運営事業.....	8
公益目的事業 2：ボランティア普及啓発事業	10
公益目的事業 3：シェア・ハート・フォー・シック・キッズ事業	11

*本資料における当財団名の略称表記：

公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン：DMHC

財団の概要（基本理念と事業）

財団の目的

困難な病気を患っている児童及びその家族を支援するため、必要とされている医療施設の近くに安価で滞在できる施設を設置・運営することによって小児医療や家庭の福祉に貢献し、医療分野や福祉活動等におけるボランティア活動を推進する為の助成活動・啓発活動を行なうことにより、**わが国の医療・福祉への支援体制の確立に寄与すること。**

財団のミッション

『入院している子どもたちとそのご家族がよりよい生活をおくれるようにサポートする』

財団ミッションにより下記に寄与する。

- ハウスの建設・運営による患児と家族の支援
- ボランティア文化の醸成
- 医療を社会で支える仕組み作り

ファミリー・センタード・ケアを支える DMHC

子どもを取りまく医療において、患者とその家族の支えとなり多様なニーズを満たしていくために重要視されているのが、ファミリー・センタード・ケア。これは、家族も子どものケアに関わるチームの重要な一員であり、子どものケアや治療方針などの意思決定に参加することを大切にする「家族を中心としたケア」という考え方である。このファミリー・センタード・ケアを実行・推進するためには、社会全体で家族・医療を支える必要があり、その支援の輪においてドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンは非常に大きな役割を担っている。

私たちは、子どもたちに直接医療を提供することがミッションではないが、子どもを看病するご家族に滞在場所ときめ細やかなサポートを提供することを通じて、ファミリー・センタード・ケアをはじめとする効果的な医療の実現に貢献し、病気の子どもとそのご家族により多くの笑顔をお届けする。

財団の事業とその概要

1. ハウス運営事業

病気の子どもたちとその付き添い家族のための滞在施設および休息施設の設置、管理・運営等に関する事業

<背景と概要>

難病の子どもたちとその家族は、高度医療を受けるためには特定の小児科病院に入院せざるを得ず、日常生活圏から離れた場所での宿泊費その他の不可避な支出を強いられる。長期にわたる継続的な入院や治療は、所得を圧迫することになり、ましてや低所得の家庭においては、生活困難に直接結びつくことになる。また、乳幼児期の子どもにとって、両親から離れての入院治療を行うことは、その精

神の健全な発育の妨げとなり得るものと考えられる。

ハウス運営事業は、難病の子どもたちとその家族の経済的・精神的な負担をやわらげ、日常の生活圏から離れても家族が頻繁に触れ合うことのできる生活環境を提供することにより、安心して高度医療を受ける機会を与え、児童又は青少年の健全な成長と育成に寄与している事業である。

<主な事業内容>

- ① ドナルド・マクドナルド・ハウスの開設と運営
 - ・ 主に高度医療を提供する小児病院や（参考指標：小児病床 100 床以上、ICU 等 20 床以上）、小児がん拠点病院等に隣接して、入院・通院している子どもたちとその付き添い家族が滞在できる施設を建設・運営する。
 - ・ 1 人 1 日 1,000 円の利用料金で経済的負担を軽減し、リラックスした環境の中、ボランティアや他の家族とコミュニケーションをとることで精神的にも安らげる場所を提供する。
 - ・ 寄付金とボランティアにより運営する。
- ② ドナルド・マクドナルド・ファミールームの開設と運営
 - ・ 主に高度医療を提供する小児病院（参考指標：小児病床 100 床未満、ICU 等 20 床未満）の病棟内に設置して、入院中の子どもたちの付き添い家族が休息できる場所を開設・運営する。
 - ・ 利用は無料で、院内環境とは異なり、ご家族がリラックスし、食事やおやつを食べたり、昼寝をしたり、院内のストレスから解放される場所を提供する。
 - ・ 寄付金とボランティアにより運営する。

2. ボランティア普及啓発事業

病気の子どもたちとその付き添いご家族を支援するボランティアの普及・啓発活動および、ボランティア育成の事業

<背景と概要>

ハウスを必要とする子どもたちとご家族が、「第二のわが家」として安価にかつ安心して利用していただくためのハウス運営は、ボランティアの支援無くしては成り立たない。そのためにはハウスの活動を広く周知し、ハウスの意義に共感し難病の子どもたちとご家族に心を寄せて支援いただけるボランティアを募集し育成していく必要がある。

ボランティア活動はあくまで個人の自発的な意思に基づく自主的な活動であるが、ボランティア個人の自己実現への欲求や社会参加意欲が充足されるだけでなく、その活動の広がりによって、社会貢献や福祉活動等への関心が高まり、地域で小児医療を支える体制づくりや、共に支え合う地域社会づくりの浸透に大きな意義を持つ事業と言える。

<主な事業内容>

- ① ハウスボランティアの募集および育成
 - ・ 全国のハウスでボランティアを募集、ハウスを活動の場として育成する
 - ・ ボランティアフォーラムの開催を通じてマインドを育てる
 - ・ 企業ボランティアや学生ボランティアを募り、活動の場を広げる

- ・ ボランティアマインドの醸成と啓発：ボランティアの意義（自発的な意思に基づき他人や社会に貢献する行為）と4つの原則（「自主性・主体性」、「社会性・連帯性」、「無償性・無給性」、「創造性・開拓性・先駆性」）
- ② ボランティア活動の周知
 - ・ 病気の子どもたちやそのご家族にとって、自分たちを支援してくれるボランティアの存在を知ることが、「ひとりではない」支えてくれる方々がいる、と感じてもらえることであり、周知していくことはとても大事なことである。
 - ・ ボランティア活動を SNS 等で発信、および情報誌や年間報告書にて紹介する

3. シェア・ハート・フォー・シック・キッズ事業

入院・通院している子どもたちの QOL を向上させ、病気の子どもたちに笑顔を届けることを目的とした事業

<背景と概要>

入院治療を余儀なくされた子どもたちにとって、病棟での体験は非日常的なものであり、なじみのない医療施設や医療スタッフ、苦痛を伴う医療的処置、治療から生じる外見上の変化など、入院する前の日常生活と分断された感覚をもちやすくなる。このことは身体面のみならず、心理社会的側面において、多くの喪失やその予期を伴うために、怒り、不安、抑うつなどの感情をもたらす。入院治療中は、自分で何かを選択したり、決定することが許されにくい環境であるために、子どもたちのコントロール感が低下したり、無力感が生じることがある。また、集団での活動が制限されやすい病棟生活では、本来子ども同士が関わることで育まれる社会性の獲得が妨げられやすくなる。

入院中の子どもたちに対して、喜びとなるギフトを届けることや学習・体験のプログラムを提供することは、子ども同士が関わることで得られやすい感情を体験したり、対人関係の中で自分の言動を調整する力や集団におけるルールを学習するなど、今後の社会生活に求められるスキルの獲得の機会として重要な役割を担う事業となる。

同様に、子どもの看病に付き添う家族に対しても、日常生活を顧みることができる支援をすることは、看病のストレスから解放されリフレッシュすることで子どもの治癒効果が高められると考えられる。

<主な事業内容>

- ・ ハートフルカートとして、入院している患児と付き添い家族を対象に、小さな文具や玩具、日用品などを配布
- ・ 入院している患児と付き添い家族に対する体験活動の提供（オンライン体験プログラム）
- ・ 患児が実際に体験できる活動の提供（参加型の体験プログラム）

2025 年事業運営の方針

目標（指標）

患児・家族への支援と影響力を最大化する

- ・ ハウス利用家族数：6,700 家族
- ・ ハウス稼働率：64%
- ・ ファミリールーム利用者数：1,200 家族
- ・ ファミリールーム利用率：75%
- ・ シェア・ハート・フォー・シック・キッズプログラムによる支援者数：15,000 名
- ・ 「ドナルド・マクドナルド・ハウス」認知率：指標 34%
- ・ 寄付・募金：指標 950,000 千円
- ・ ボランティア人数（ハウスボランティア＋企業ボランティア）：指標 2,400 名（12 月末登録者数）
- ・ ボランティア稼働時間数（ハウスボランティア＋企業ボランティア）：指標 170,000 時間

優先事項

1) プログラムの拡大とサービスの質を高める（より多くの家族に、より良いサービスを）

- ・ ハウス/ファミリールームの適切な稼働/利用のための課題改善を強化する
- ・ 利用家族の満足度が高い、ミールプログラムと癒しプログラムを促進する
- ・ 利用家族が安心・安全に生活できる施設の修繕、設備の保守点検とメンテナンスに計画的に投資する
- ・ 利用家族の利便性を高めるための DX 化を推進する（キャッシュレス化、利用者の入出管理等）
- ・ ハートフルカートの効果的な運用を促進する。そのための物品手配と配送システムに投資する
- ・ 効果的な体験プログラム（オンライン型/参加型）の展開・拡大を強化する
- ・ 新規ハウスの開設準備を推進する（しずおかハウス、京都ハウス）
- ・ ファミリールーム拡大のための開設ニーズのある病院へのコミュニケーションを開始する

2) 支援者を増やし持続的な財務基盤を構築する（エンゲージメントの促進）

- ・ 支援者拡大のための広報とファンドレイジング活動を強化する。
- ・ チャリティイベント（ラン＆ウォーク、各マラソンチャリティランナー、チャリティパーティ）による効果を高める
- ・ ハウス毎のチャリティイベントと、ファンドレイジング活動を強化する
- ・ 公益目的事業に従たる収益事業（イベント開催・物品販売）の実施検証を行う
- ・ 資産運用による効果を増加させる

3) 外部とのパートナーシップを強化する（連携（コラボレーション）の強化）

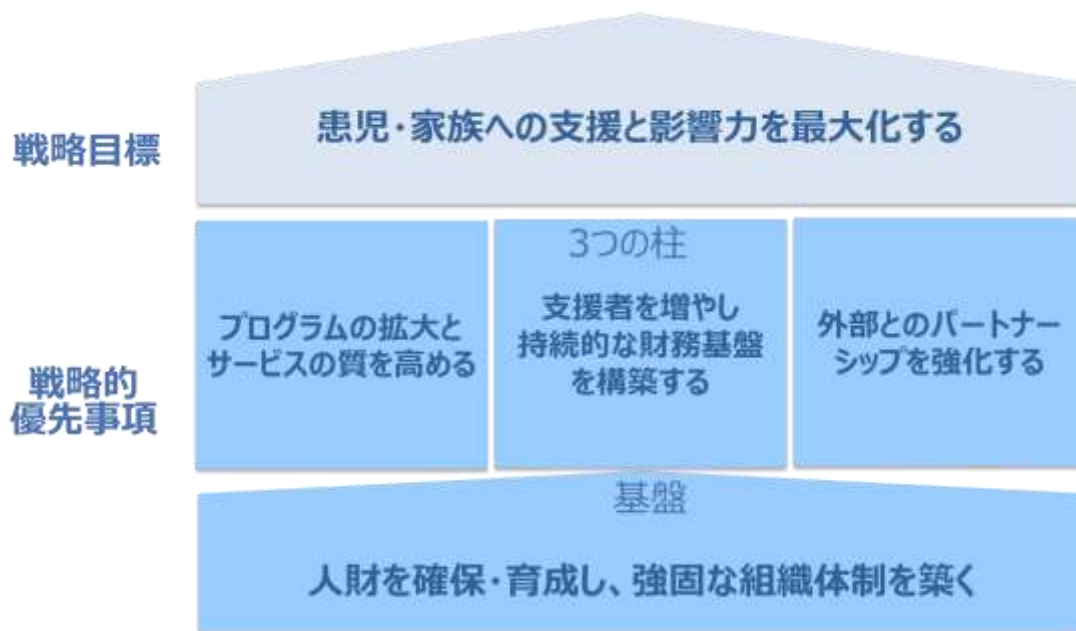
- ・ ファミリー・センタード・ケア（FCC）フォーラムを開催する（ふくおかハウスで開催予定）
- ・ ハウス毎の外部パートナーシップを戦略的・計画的に推進する（外部パートナーとは、ハウスのある地域で、小児医療関連の NPO や団体、小児医療の課題改善に取り組んでいる・取り組もうとしている企業、

行政、学校法人、など)

- ・ ハウス間での活動・情報の共有を強化する
- ・ 他チャプターとの情報共有を強化する

4) 人材を確保・育成し、強固な組織体制を築く（人を優先する）

- ・ ボランティアのスキル・能力をさらにハウス運営に活かせるシステムを整備する
- ・ 事務局体制の強化のための人員配置と育成、およびハウススタッフの労務・労働環境を整える。
- ・ IT インフラ改善およびシステム導入・運用への投資を推進する
- ・ Global Chapter Excellence を活用し組織体制を強化する



公益目的事業 1：ハウス運営事業

病気の子どもたちとその付き添い家族のための滞在施設および休息場所の設置、管理・運営等に関する事業

2025年予算総額 619,440千円

<2025年事業内容>

1. ドナルド・マクドナルド・ハウスの運営

① 全国12のハウスの管理・運営

- (ア) ハウスの有効活用のため稼働率（全ハウス平均）対前年+2ポイント（64%）を指標にした周知と利用の促進（中期的な稼働率の指標は全ハウス平均70%）、および稼働率80%を超えるハウス（せたがや・さいたまハウス）の運営・運用の改善策の検討
- (イ) ハウス利用者へ提供するサービスの強化（ミールプログラム、癒しプログラム）
- (ウ) ハートフルカートや体験イベントによる支援活動の実施
- (エ) ボランティアの募集と育成
- (オ) 地域内へのファンドレイジング活動とチャリティイベントの展開

② 新規ハウスの開設準備

- (ア) しずおかハウスの建設準備
- (イ) 京都ハウスの建設準備

③ 既存ハウスの修繕投資

- (ア) せたがやハウス大規模修繕工事（2025年～2026年にて実施） 450,000千円
 - ・外装工事（雨漏り修繕・防水加工） 100,000千円
 - ・内装工事（全室リフレッシュ・居室増室） 350,000千円工事期間中の仮居室対応 25,000千円
- (イ) 東大ハウス修繕工事 60,000千円
 - ・外壁・外装（木製デッキ）および設備の老朽化に伴う修繕
- (ウ) ふくおかハウス修繕工事 17,000千円（福岡市立こども病院と折半後の金額）
 - ・外部塗装面、建具廻りの経年劣化に伴う修繕

2. ドナルド・マクドナルド・ファミリールームの運営

① ファミリールームの運営体制・運営方法等の検証

- 榊原記念病院ファミリールームにおいて、利用者の状況、運営方法（運営時間、日常業務）、運営体制（スタッフやボランティアの役割と配置等）と運営費用等について確認し、今後の展開におけるガイドラインを策定する
- 付き添い家族のファミリールーム利用を促進するために、病院と連携し、主要課題を改善する

② ファミリールーム拡大の計画

- 主な病院へのニーズ調査をもとに、ファミリールームを必要とする病院へのコミュニケーションを進め、拡大計画を策定する

施設一覧

<ドナルド・マクドナルド・ハウス>

	ハウス名	住所	連携病院
1	せたがやハウス	東京都世田谷区大蔵 2-10-10	国立成育医療研究センター
2	せんだいハウス	宮城県仙台市青葉区落合 4-5-3	宮城県立こども病院
3	おおさか健都ハウス	大阪府摂津市千里丘新町 5-30	国立循環器病研究センター
4	とちぎハウス	栃木県下野市祇園 2-36-3	自治医科大学とちぎ子ども医療センター
5	さっぽろハウス	北海道札幌市手稲区金山 1条 1-2-5	北海道立子ども総合医療・療育センター
6	ふちゅうハウス	東京都府中市武蔵台 2-9-2	東京都立小児総合医療センター
7	東大ハウス	東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学構内	東京大学医学部附属病院
8	なごやハウス	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65	名古屋大学医学部付属病院
9	ふくおかハウス	福岡県福岡市東区香椎照葉 5-1-2	福岡市立こども病院
10	神戸ハウス	兵庫県神戸市中央区港島南町 1-6-7	兵庫県立こども病院
11	さいたまハウス	埼玉県さいたま市中央区新都心 1-2	埼玉県立小児医療センター
12	にいがたハウス	新潟県新潟市中央区旭町通一番町 756-9	新潟大学医歯学総合病院

<ドナルド・マクドナルド・ファミリールーム>

	ファミリールーム名	住所	連携病院
1	榊原ファミリールーム	東京都府中市朝日町 3-16-1	榊原記念病院

公益目的事業 2：ボランティア普及啓発事業

病気の子もたちとその付き添いご家族を支援するボランティアの普及・啓発活動および、ボランティア育成の事業

2025 年予算総額 12,888 千円

<2025 年事業計画>

① ボランティアの募集および育成（ハウスボランティア／企業ボランティア）

<ボランティアの募集>

(ア) 全国 12 のハウス毎に、その地域内でハウス周知とハウスボランティア募集を行う

募集媒体は、各行政区の広報誌、近隣大学やボランティアサポートセンター、またはハウス毎に SNS での発信により、地域住民や学生に訴求する

(イ) ボランティア説明会・体験会を開催する

財団の目的とミッション、患児や家族に対するボランティア活動の意義や内容を啓発する

<ボランティアの役割と育成>

(ア) ボランティア普及啓発事業チームと人財開発チームと連携してボランティアプログラムを開発し実行する

(イ) ハウスボランティアおよび企業ボランティアのプログラムのメニュー化を図り（①日常の清掃や整理整頓、②事務作業、③定期メンテナンス業務、④ミールプログラム、⑤癒しプログラム、⑥寄付・募金イベント活動、など）、特に企業ボランティアに対してボランティアプログラムの紹介、イベントボランティアへの拡大、また活動のスケジュール化を促進する

(ウ) ハウスボランティアの育成システムを再構築する（募集・オリエンテーション・フォローアップのプロセス化と、トレーナーの育成）

(エ) ボランティア育成のために、ボランティア心得や活動における原則を記載した『ボランティア手帳』を作成し、全てのボランティアに配布する

(オ) ハウスボランティア リテンションプログラムとして、『ボランティア感謝の集い』を開催し、永年継続者の表彰と記念品の授与を行う。また、『ボランティア感謝の集い』では、ボランティア相互の情報や意見の交換の場として、ボランティアマインドの醸成を図る

② ボランティア活動の周知

(ア) ハウス毎に SNS やニュースレターでボランティア活動や情報を発信する。イベント企画や結果報告等は SNS にて随時発信する、月 10～15 件。

(イ) 財団ホームページや情報誌、年間報告書（4 月発行）にて情報発信する。

③ ファミリー・センタード・ケア（FCC）フォーラムの開催

(ア) 「ファミリー・センタード・ケア」理念の実現に向けて、小児医療の現状と課題を伝え、ボランティアを核とした地域で小児医療を支えることの重要性を共有し、地域の方々と共に考える

(イ) FCC フォーラムは、ハウスが中心となり、連携病院の協力を得て、その地域の方々を対象として開催する。開催時期は 10 月、主催ハウスはふくおかハウスの予定。

公益目的事業3：シェア・ハート・フォー・シック・キッズ事業

入院・通院している子どもたちの QOL を向上させ、病気の子どもたちに笑顔を届けることを目的とした事業

2025 年予算総額 11,693 千円

<2025 年事業計画>

① ハートフルカートの展開

- (ア) 榊原記念病院も加えた、現行の 16 病院でハートフルカートを展開する
- (イ) ハートフルカート拡大に備えたシステムを検討し構築する。病院におけるハートフルカートのニーズ検証、展開する病院所在地・エリアに応じた展開方法の検討、カートにて提供する物品の手配（支援者の拡大）と物品の保管・配送等のシステムを構築する

② オンライン体験プログラムの展開

- (ア) ハウス毎で実施しているオンライン体験プログラムを整理し、全てのハウスに共有し、連携病院を巻き込み展開する。
- (イ) 病院や患児・家族のニーズに合った体験プログラムを支援企業の協力を得て新たに開発する。医療的視点でのインプットも得て、体験プログラムの方向性（誰に、どのような体験が適するか、など）を定める。

③ 参加型プログラムの展開

- (ア) 支援企業の協力を得て、参加型イベントを企画し展開する。年 6 回以上開催。
- (イ) オンライン体験プログラムと同様に、病院や患児・家族のニーズに合った参加型プログラムを支援企業の協力を得て開発する。

